

健康教育論	3年・後期	2単位	准教授 島田 昇
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310902

1. 授業のねらい・概要

健康教育の目的・方法について学習する。健康教育の演習をとおして、健康課題への気づきと学生自らの「学習する」主体の形成を図る。

2. 学修の到達目標

1. 健康課題の歴史の変遷と近年における健康課題を理解できる。
2. 演習をとおして、健康教育の企画と展開方法について理解を深めることができる。
3. 健康教育プログラムを作成しプレゼンテーションすることができる。

3. 授業の進め方

講義およびグループワークとする。演習として、健康教育の実際をイメージし、課題の設定、学習資料の作成、教室の運営等を行う。

4. 授業計画（演習）

1. 健康教育理論の変遷	9. 健康教育媒体の作成 ①
2. 健康づくりの歴史とヘルスプロモーション	10. 健康教育媒体の作成 ②
3. 教育媒体	11. 健康教育媒体の作成 ③
4. 健康教育指導案	12. 健康教育の実践 ①
5. 健康教育指導案作成 ①	13. 健康教育の実践 ②
6. 健康教育指導案作成 ②	14. 健康教育の実践 ③
7. 健康教育シナリオ作成 ①	15. 健康教育の実践 ④
8. 健康教育シナリオ作成 ②	

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）60%，健康教育指導案10%，健康教育シナリオ10%，健康教育媒体10%，健康教育の実践10%を基準に総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：荒賀直子，後閑容子（2017）公衆衛生看護学 第4版 データ更新版．インターメディカ

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

グループ演習をスムーズに行うため，進行度に合わせ，グループ間でスケジュールを計画し，課題を実施すること。

8. 受講上の留意事項

講義と演習とですすめる。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験実施の際に解答などを説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

行政委託機関および，医療機関での保健師としての勤務経験を活かして，講義・演習の指導を行う。